

お名前	性別	満年齢	終戦時の年齢	現住所
林 正雄 ^{まさお}	男性	86歳 H27.8.15 現在	16歳	新城市玖老勢

「軍国少年から終戦へ」

私は、昭和4年（1929）に新城市^{とみざわ}富沢で、5男3女の3男として5番目に生まれました。世界経済^{けいざいきょうこう}恐慌の始まった年で、日本も不景気になり、失業者が多く出だしました。2年後には満州事変が始まり、3年後には5.15事件が起きました。

田口線が開通した年です。頭のできもので、竹広の信玄病院へ通ったと聞かされましたが、もちろん記憶^{きおく}にはありません。3歳^{さい}ぐらいだったでしょうか。

◆ 昭和10年（1935）に東郷西尋常^{とうごう じんじょう}高等小学校へ入学。松、梅の2組で、私は梅組^{たんにん}、担任は女子師範学校出の阿部 栄^{あべ さかえ}先生でした。色が黒いので大きな子たちは、「クロンタ」と言っていたようですが、1年生では知りませんでしたし、言いませんでした。

当時の学校には、四大節^{しだいせつ}といわれる祝日がありました。四方節（新年祝賀式^{しゆくがしき}）、紀元節（今の建国記念日＝2月11日）、天長節（天皇誕生日＝12月23日）、明治節（明治天皇誕生日＝文化の日＝11月3日）の四日です。祝日といってもその日は休校ではなくて登校し、式を行い、紅白^{こうはく}のまんじゅうをもらって下校しました。私は2月11日生まれなので、家の人も誕生日を忘れることはありませんでした。四大節には、それぞれ式の歌がありました。紀元節は、「雲にそびゆる高千穂^{たかちほ}の、高嶺^{たかね}おろしに草も木も、なびきふしけん大御世^{おおみよ}を仰ぐ（祝）、今日こそ楽しけれ」だったと思います。

◆ 2年生（昭和11年）の時、2.26事件、3年生（昭和12年）の7月7日、日支事変が始まり、日本軍が上海へ上陸しました。7日であったか、8日であったか、大雨^ふが降りました。父親のいいつけで、豊川^{とよがわ}（大川と言っていた）の近くにある田の石垣^{いしがき}が洪水^{こうずい}で壊されているかもしれない、見てこいとのことで行きました。豊川支流^{しりゅう}、光仏川^{こうぶつ}の増水^{ぞうすい}で、目の前で石垣^{いしがき}がくずれていくのを見て、家に帰ったら、「〇〇さんに赤紙^{あかじ}が来た」と、とても緊張^{きんちよう}した空気でした。

◆ 3年生は、確か竹川^{たし}先生が担任でした。新城農蚕学校^{のうさん}（4年）を卒業された代用教員で、阿部先生と違って若くて慣れない先生でしたから、ちょっと馬鹿にしたこともありました。5年生の時だったか、友だちの持っていた少年雑誌に『ああ軍神^{しやうい}、竹川少尉^{くにお}』の大見出しで「竹川邦雄」の名が出ていて、びっくりしたし、悪いことをしたと後悔^{こうかい}しました。4年生の時、国家総動員法^{そうどういんほう}が発令されました。

◆ 6年生（昭和15年）の時は、日本の国ができてから2600年になるというので（西洋の紀元－イエスキリストの暦より660年古い。だから世界で日本が一番古い）国中がお祝いムードの年だった。

日本の最初の天皇は神武天皇、お墓（御陵）は奈良県橿原にあり、橿原神宮に祀られているというので、今までの修学旅行は名古屋、伊勢の一泊二日であったが、この年に限り伊勢・奈良（橿原）へ二泊三日の旅行になった。

1年生入学の時から毎月、修学旅行貯金をしていたので、行けなかった者はなかったと思う。額は大部分の子が10銭、30銭の人がちょっと、一人だけ1円の子がいたが、製糸工場を営んでいる人の部下の子だった。30銭の貯金でも1年11回（夏休みはなし）、6年生の途中までだから20円にはならなかったはず。すでに物資が不足していて、学生帽の新しいのが買えなくて、父親がどんな話をしたのか、元消防団の偉い人でなければかぶれない帽子を買ってきて（もらったかもしれない）、東新町の青木帽子店で改造してもらったのをかぶって行った。

◆ 6年生を終わり、後は旧制中学校（5年）へ行くか、高等科（2年）へ進むかだった。同級生の中で中学へ一人、高等女学校へ一人、あとはみんな高等科へ進んだ。自分は中学へ行きたかったが、当時の中学は豊橋にあったし、兄二人も行っていない、お金もないからダメということで、あきらめた。

◆ サイタ サイタ サクラガサイタの読み方（国語）で、小学生時代を過ごした世代は、誰もが「僕は軍人大好きよ、今に大きくなったなら、肩章つけて剣さげて、お馬に乗ってハイドウドウ」の歌を歌い、軍人をめざす軍国少年（女の子は知らないが、スチュワーズなんか考えないから看護婦だったろうか）ではなかったかと思う。

陸軍幼年学校は、中学1年の学力があれば学歴は考えないということで、父親が中学へ行かせなかったのを気にしてか、受けてみることになった。

1級上で挑戦した人（先生のすすめ）がいたが、成功しなかった。夏休み返上で猛特訓を受けた。当時父親は、今の時習館高校の数学の講師をしていたので、中学1年のテスト問題は入手できた。（多分テストは国、数だけだった）人生のうちで一番勉強した時（まさに強いて勉めた）かもしれない。

試験は豊橋、身体検査を含めて二日であったか三日であったか。試験の問題と解答を父親に報告すると、「いいぞ」と言ってくれて安心する一方で、でもダメだろうとも思っていた。中学生でない人を見つけなかったし（服装で分かった）、父



戦時中の尋常小学校1年生の教科書

兄同伴なのだが、多くの受験生の父兄は軍人（それも将校が多い）で、門を入る時、守衛兵が緊張して敬礼する人ばかりに見えたから。

案の定、不合格。以後全くふてくされて、担任の村田孝雄先生にとっては厄介者だったと思う。宿直の時には、男女いっしょに何人かを泊めて食事作りを一緒にしたが、授業の時は職員室から先生が出るのを見届けて、「敵艦見えたり、近づきたり……」と警報役をした。先生の顔がテカテカだったからテッカソ。

当時、背（身長）は小さくて並ぶ時は前から2、3番目、運動が苦手の俗に「オボコイ」（幼稚っぽい）といわれるタイプだったが、ちょっとした真面目少年が不良っぽくなったので、その道の先輩がいろいろ悪いことを教えてくれた。読むことを禁止されていた豆本（ポケット本）で、猿飛佐助、霧隠才蔵などを貸してくれた原田君は、海軍の志願兵に応募して、同級生で一番早く戦死した。授業をさぼって読んだ。夏の猛勉強のおかげで、算数は先生より？できた。この年の12月8日、真珠湾攻撃で太平洋戦争に突入した。

◆ 昭和17年（1942）、新城農蚕学校に入学した。驚くことばかりだった。教室をぶち抜いて（3教室）講堂にしていたから、（新城小には講堂があったかもしれない）玄関の2階に講堂、物理教室、化学教室、剣道場、柔道場、蚕室、製糸工場、農具舎、牛・豚舎、寄宿舍、銃器庫（三八式歩兵銃が50挺《1クラス

分）くらいあったろうか）、軍事教練の教官室、広い農場……。

校歌は、土井晩翠の作詞で「歴史に名高き戦場近く、産業豊かに地の利を占むる…」。

運動場には囲壁障害（塀を乗り越えること）、西の端には塹壕があった。

平成27年5月、農蚕24回生の第68回目の同級会を開いた時、長篠の内藤君が当時の入学の資料を持ってきてくれた。

4月6日入学式、新入生は88名、その時の必要経費は右の通りだった。

◆ 昭和18年（2年生）、この時の3年生は一ヶ月ほど満蒙開拓団として満州へ半分、半分は北海道へ行ったと



「蚕室」 新城農蚕学校アルバムより 提供：高安新治さん

昭和17年 新城農蚕学校入学 当時のおもな金額

授業料：3円50銭
貯金：1円 国債費：50銭
教科書代：13円89銭
戦闘帽：2円80銭
運動靴・地下足袋：各1円50銭
竹刀：1円50銭 鍬：7円50銭
制服夏・冬：30円
（国防色＝カーキ色）

思う。2年生は1月21日
 から安城，矢作，旭村な
 どへ暗渠排水の工事で10
 日間ずつぐらい，寺泊りで
 学徒挺身隊として出動した。
 水が出てくると地下足袋で
 はダメなので草履だった。



「軍事教練」 昭和10年新城農蚕学校アルバムより 提供:高安新治氏

◆ 土地改良中核隊，愛知県新城農蚕学校出動計画 昭和19年1月
 【編制】 指導者2名（教諭・助手） 隊員2年生 5班編成51名

【日程・場所】 作業は排水路掘削
 1月19日～ 学校出発（8:30） 宿舎（高棚国民学校）着（12:30）
 1月30日 休養日 旭村着 受入式 31日から作業～
 2月8日～ 午後安城宿舎北明治説教所着 受入式 翌日作業
 2月19日 午前10時帰還式，午後1時55分 東新町駅着
 奉安殿拝礼，学校長あいさつ 3時解散

【日課】

午前 5:00 起床，清掃 5:30 朝拝（点呼，体操，駆け足）
 6:00 朝食（食前詞～一拝～食事～食後詞～一拝）
 7:30 朝礼 国民儀礼，国歌斉唱，国旗掲揚，二拝二拍手
 天晴オケ（天突き），信条朗唱，弥栄，二拝二拍手
 時計規正，作業配当
 8:00 作業開始 休憩（10:00～10:15）
 11:30 昼食～現場
 午後12:30 作業開始 休憩（2:00～2:20）
 3:30 作業終了
 4:00 夕礼 国民儀礼，国歌斉唱・国旗降納，二拝二拍手
 天晴オケ，信条朗唱，弥栄，二拝二拍手
 4:30 帰舎，整理体操，農具収納
 5:00 夕食，休憩・入浴
 7:00 修養・和楽（時局解説・和楽等《ハーモニカで歌等》）
 8:00 夕拝，点呼，合掌礼拝，心経・舍利礼文～合掌礼拝
 祈念（御製朗唱），宮城遙拝，海ゆかば，一同敬礼
 8:30 就寝

◆ 昭和19年(3年生), 岡崎, 上郷の海軍飛行場づくり, 碧海郡へ勤労働員

6月 碧海部地方へ出勤(10日単位)することが多くなった。依佐美の無線鉄塔の下で働いたこともある。

先生方で召集される方が何人かあったし, 学校は「颯」部隊の駐屯場となった。桜淵にはたくさんの馬が飼われ, 学校にいる時は「馬糞かき」に動員されたり, 馬の運動のために乗馬を教えられ, 本宮山まで一人で町中を走って往復したりしたので, 馬に乗れるようになった。

◆ 昭和20年(4年生), 本土決戦が叫ばれるようになり, その指揮者養成のため, 太田君と二人で三重県の菰野へ1ヶ月間派遣された。訓練を終えて帰る時, 豊川の海軍工 廠 が爆撃されたから, 帰りは気をつけて行くように言われた。無事に帰ることはできた。

多分そのまま待機中だったと思う。天皇陛下の放送があるというので, 家のラジオを聞くのだが, ピーピー音ばかりするので, 茶臼山駅前のマルイチ商店のがよく聞こえるというので聞きに行ったが, これもやっぱりビービー音でよく聞き取れなかった。とにかく明日は学校へ行こうと決めて帰ってきた。

◆ 8月16日 登校した。集合したら, いきなり馬場校長が, 「東条英機は, 足利尊氏以上の逆賊だ」と言われた。急にまた, なんてことをと思っただけでその真意は今もって不明である。

◆ 二学期から急に授業が始まった。3年半のブランクを埋めないままだから, 文字通り砂上の楼閣。先生方には軍隊帰りの人も多くおられた。東大卒の陸軍中尉は歴史, 国学院大卒の陸軍大尉は国文法といった具合。年齢はどうかよく分からなかったが, 大尉の人は中尉の人を君づけで呼んでいた。鈴木太吉先生には, 国語を2時間は教えてもらった記憶がある。

食糧増産が一番大事と思われていたので, 父親は, 兄二人は教職で日本再建を図り, 三男には農業をさせるとの思いでいたから, 同級生の中で進学を希望する者は補習授業を受けたが, 僕は学校へ行く前に百姓仕事をし, 授業が終わればすぐに家に帰って百姓をした。勤労働員で渥美にいた時, カルチベーターという牛を使つての耕耘機を扱つたので, 頼んで農協から買つてもらつた。爪の所だけが鉄製で, あとの部分はすべて木製。それもさっそくには手に入らなかつた。サツマイモの床づくり, 麦の耕作, 里芋掘りとあらゆるものに使つたから, 隣近所の人たちから「何てすごいことをする。」と驚かされた。

途中からどう気が変わったのか, 父親が「青年師範学校の試験を受けてくれ, 合格したらそっちへ行つてくれ。」と言われ, 落ちると決めて受験したら受かつたので, 教職に就くようになった。大きな人生の転換だった。昭和21年の6月だった。